

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月23日

学校法人 田澤学園 東一の江幼稚園

1. 本園の教育目標

いつもにこにこ元気な子ども
思いやりのあるやさしい素直な子ども
伸び伸びと創造性の豊かな子ども

<教育方針>

1. 明るく健康な精神と元気な活力に満ちた心身の基礎を築く
2. 基本的な生活習慣と正しい社会的態度を育成し、豊かな情操を養う
3. 伸び伸びとした表現活動を通して創造性を養う
4. 自主・自発的な活動を促し、自立する心を養う
5. 毎日の遊びや活動の中で健全な心身を養う

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

(1) 保育の質の向上と業務負担軽減

保育の質の向上と業務負担軽減の両立を目指すために ICT 化の活用や保育内容の検討をする。

(2) 保育の質の向上を目指す「共有」

保育環境やドキュメンテーションなどを教職員間で共有化し、保育の質の向上を目指す。

(3) 保護者に「伝える」を活用した保育者の資質向上

単に子どもたちの様子を保護者に伝えるだけでなく、その中での子どもの学びなどをより深く保育者が理解できるようにする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

○評価項目の達成及び取り組み状況を検討する上で、保育者等の自己評価を以下の通りに実施した。

- ・各項目の「工夫したこと、よくできたこと」「課題に感じたこと」を各自記入
- ・記入したものを持ち寄り、園内研修において小グループで討議（令和4年9月6日）
- ・討議し、その後の保育実践や文献などにおいて再度評価したことなどと追記し園長に提出
- ・園長を中心に「工夫したこと、よくできたこと」「課題に感じたこと」をとりまとめ、それをういて園内研修を再度実施（令和5年2月27日）

○保護者アンケートは令和5年3月6日～10日まで無記名のアンケート調査(インターネット利用)である。

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の質の向上と業務負担軽減	B	<p>○この項目の保育者等の自己評価や、園全体の評価として、保育の質の向上と業務負担軽減の両立において「子どもの育ちとの連携」「環境構成等の工夫」「保育者間の連携」「業務の工夫」などの取り組みの工夫が見られ、保育の質の向上と業務負担軽減の相乗効果を保育者も感じていることがわかる。</p> <p>保育者等の自己評価を園がとりまとめた意見として、「工夫したこと、よくできたこと」が22項目「課題に感じたこと」は12項目であり、保育者等が課題はありつつも多くの工夫をしていることもわかる。</p> <p>○先の相乗効果の具体例として、音楽に関しては外部講師の活用により子どもの音楽に触れる機会が増えるとともに業務を分散できたこと、また楽譜等の書籍を整理し、参考にしやすくなったこと等があげ</p>

			<p>られる。</p> <p>○本年度本課題を意識したことにより、ゆとりを持って仕事をするのが保育の質の向上につながる意識を持つ成果はあったが、業務負荷が高まる時などが解消されたわけではなく今後の課題にもなるため評価をBとする。</p>
--	--	--	--

2	保育の質の向上を目指す「共有」	A	<p>○保育者等の自己評価では「工夫したこと、よくできたこと」は「保育者間の対話」「環境からの学び」「ドキュメンテーション」「保育時間内での共有」に関するものが多かった。特に他クラス等の保育環境を保育者等が参考にし、保育に活用したり、他の保育者が作成した「ドキュメンテーション」を参考にしたりすることがとても効果的であった。</p> <p>さらに、「保育者間の対話」においては、「子どものことを保育後話し合える時間と雰囲気がある」「悩みや迷いを周りの人に相談させてもらえることはありがたい」というような意見も見られ、今後もこのような教職員間の関係性を大切にしていきたい。</p> <p>○保護者会や講演会を保護者に動画配信をしているが、これらを保育者等もみることができ、それを参考にしていることも多い。</p> <p>○教職員間の共有は保護者からは見えず、外部評価は難しいが、保育者等が職員間の対話等を重視し、ドキュメンテーションや動画配信など共有するツールを活用し、今年度の保育の質の向上に寄与したと考えられることからAとした。</p>
3	保護者に「伝える」を活用した保育者の資質向上	B	<p>○昨年度よりICTを活用したドキュメンテーションを導入した。昨年度の年度末アンケートではドキュメンテーションを「毎日のように見ている」人は16%であったのに対し、本年は51%まで増加しており、徐々に定着をしていることと、保育者が伝わりやすいドキュメンテーションを発信することが多くなってきたことがわかる。</p> <p>○保育者等の自己評価の「伝える」に関する「工夫したこと、よくできたこと」では「ドキュメンテーション」「保護者との対話」「伝え方の工夫」に対する意見が多く、先のドキュメンテーションだけでなく日常場面における「伝える」ことを重視していることもわかる。</p> <p>○本年度は飼育栽培における子どもの育ちや家庭での絵本の読み聞かせの重要性を伝えることもしてきたが、飼育栽培においてはアンケートからほとんどの人（約98%）が「何よりも重視」「重視する」と答えていることに対し、絵本に関しては貸し出し絵本などの充実も合わせて実施したが、「ほぼ毎日読み聞かせをしている」「(37.5%)」「週に数回」(25%)とやや少ないと感じる結果になったため、引き続きその重要性を伝えられる工夫をする必要があると感じた。そのため、ドキュメンテーションなどによる保育者の資質の向上は見られたがB評価とする。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>○保育者等の自己評価のすべての項目において「工夫したこと、よくできたこと」が「課題に感じたこと」よりも記述数が多く、これは本年度教職員が様々な工夫をしてきた結果であり、評価することができる。</p> <p>保育者等の自己評価の「工夫したこと、よくできたこと」の記述例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で子どもたちと話し合いながら遊びの場を作っていく ・保育後に他のクラスを訪ね、他の保育者から知恵や工夫を得た ・担任間で子どもの話を保育後に行う ・ちょっとした話でも雑談としてたくさん話す ・他のクラスの遊び、他学年の遊びをドキュメンテーションを通して知る機会も増え、自分の保育にも取り入れたいと思った。 ・ドキュメンテーションが保護者同士の会話のきっかけになる <p>保育者等の自己評価の「課題に感じたこと」の記述例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達の理解が乏しく、必要以上に準備をしてしまった ・支援教諭に「今はこうしてほしい」ということをもっと積極的に伝えたい。 ・共有することの偏りがあるかもしれない ・「何を学んでいるか」という部分がまだうまく文章にして伝えることが難しい <p>なお、これら課題は深く検討したからこそその課題であることも多い。</p> <p>○教員間の関係性は良好と言え、そのことが各項目の評価に表れている。例えば、保育者等の自己評価では「雑談」「話し合える」「些細な話」など日常のちょっとしたところから良好な関係性を構築しようとしていることがわかり、それが教職員間の「共有」し、保育の質の向上に寄与していた。</p> <p>○上記により、課題はあるものの今年度の課題においては総合的には十分に成果があったと考えられるため評価はAとするが、評価点は重要ではなく、評価をしていくなかで、保育などに対してそれぞれがさらに意欲を持って取り組めるようになることが大切である。</p> <p>保育者等の自己評価を園が評価し、まとめ、園内研修などを通して、園の自己評価をしてきた。そのプロセスにより見えた強みと課題を大切に、日々の保育の質の向上を目指していきたい。</p> <p>○本年度の自己評価に関しては一定の成果があったため、引き続き、取り組むものの、今後、取り組む課題に関しては、より保育内容の充実を図るため他の視点から検討することとする。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育環境の充実	保育環境でも主に園庭や保育室などにおける物的環境の充実を図り、その効果を検討する。
2	子育て支援の充実	認定こども園化にあたり必須となる子育て支援における内容の検討と充実を図る。
3	保護者に対する「伝える」の充実	ドキュメンテーションなどの「伝える」内容や頻度などの検討および充実を図る。

6.学校関係者評価委員会の評価

○年度末の保護者アンケートでの東一の江幼稚園の保育についての評価は以下の通りである。

「東一の江幼稚園の保育について5段階でお答えください」

	令和3年度	令和4年度
たいへんよい	62%	67%
よい	34%	32%
ふつう	3%	1%
わるい	1%	0%
たいへんわるい	0%	0%
回答者数	119	96

昨年度に引き続き、多くの大変高い評価をいただいた。

また、保護者アンケートや学校関係者評価委員から次のような意見があった。代表的なもののみ示す。

- ・こどもの心、気持ちを一番に考えて寄り添ってくれる
- ・教育目標、教育方針に則り、具現化に向けた運営がされていると思う。
- ・子どものやりたい意欲を尊重し、学びへと導いてくれている。
- ・子供が自由な発想で遊べる環境がある。
- ・自由に遊びを考えて他の学年と一緒に遊べる
- ・もし幼稚園での生活や学びがなかったら、今頃「保護者が子供に押し付ける子育て」をしていたと思います。
- ・この10年ほどの期間で保育内容が大きく変わってきて、不安もあったが、その都度説明などがあり、信頼することができた。だからこそ、コロナなど状況が変わってきた今年度も信頼することができた。
- ・ICT化やドキュメンテーションなど、新しいことを積極的に取り入れている姿勢が評価できる。

一方で、行事の実施や運営や預かり保育の予約状況などに対するご意見もあったが、次年度の参考とさせていただきます。

また、保護者アンケートではドキュメンテーションについても自由回答欄を設けたが、そこでの意見から、保護者に認知されていた一方で、保護者が学年やクラスによる配信頻度の違いを感じていたり、保育者による違いなどの指摘もあった。配信頻度はほぼ同一にしているにもかかわらず、違いを感じているということは内容の検討の必要性があるだろう。